日本図学会年表（1965～2016）

庶務担当理事 横山 ゆりか Yurika YOKOYAMA

庶務担当理事 椎名 久美子 Kumiko SHIINA

編集担当理事 種田 元晴 Motoharu TANEDA

- 1) 本年表は1965年12月から2016年12月までの日本図学会の活動をまとめたもので、支部活動は原則として載せていない。「巻－号（通号）」は、関連情報が記載された『図学研究』の巻号（通号）である。会員数として記載されているのは、名誉会員、正会員、学生会員の合計である。
- 2) 記載は、『図学研究』および『創立20周年記念号』の年表（1965～1987年）（非公式版のまとめとして野口徹氏による作成）、『創立30周年記念号』の年表（1987～1996年）（安達裕之氏による作成）、『創立40周年記念号』の年表（1997～2006年）（横山ゆりか作成）に基づいてまとめると共に、2007～2016年までの情報を加えたものである。

年	月		巻－号 (通号)
1965 (S.40)	12	図学にかかわる全国的な連絡組織，研究組織創設の要請	
1966 (S.41)	4	北海道大学，東北大学，東京大学，名古屋大学，京都大学，神戸大学，九州大学の図学担当教員が懇談会を開催（4月3日，於 本郷・学士会館）	
	12	発起人会開催，23名参集，組織の構成を理工系に芸術・美術系を加えた分野とする	
1967 (S.42)	5	創立総会準備委員会 日本図学研究会設立総会（5月21日，於 東京電機大学） 会員数93名，初代会長（須藤利一）決定。 趣意書：「明治の教育制度確立以来，図学が理工系ならびに美術系教育の主要な教科の一つに数えられてきた。しかるに，その教育・研究活動を交流，促進すべき独立した組織をかき，また戦後の学制改革にも十分に対処しないまま推移したが，戦後20年をへた今日に至って……全国的組織化の機運が到来」「図学とは図法幾何学だけでなく，各種の図形教育ならびにEngineering Drawing, Graphicsなど図形及びその応用に関するあらゆる分野を包括」「図学担当教官だけでなく，理工系の各分野ならびに造形芸術・応用心理学の分野で図形に関連する教育・研究に関心をもつすべての人々の入会を期待」 座談会「諸外国の図学教育の動向」「図学教育の現状」開催	
	6	会報・会誌の発行決定，英文学会名〈The Japan Society for Graphic Science〉提案	
		日本図学研究会関西支部設立（於 京都大学）	
	7	東海地区 活動開始	
		第1回例会（於 東京大学）	

年	月		巻－号 (通号)
1967 (S.42)	9	会誌英文名〈Journal of Graphic Science of Japan〉提案	
		第2回例会（於 東京電機大学）	
	10	第3回例会（於 東京大学）	
	11	第4回例会（於 東京電機大学）	
		会誌『図学研究』第1号創刊（題字は小山清男氏），以降年2回（3月，9月）発行	
1968 (S.43)	1	第5回例会（於 東京電機大学）	
	3	『図学研究』第2号刊行．図学教育の実態調査報告が掲載される	2-1(2)
	4	日本図学研究会 1968 年度大会開催（於 大阪府立大学）	2-2(3)
		名誉会員制実施（7名），文献委員会・用語委員会設置	
	7	第6回例会（於 国土地理院）	
	8	九州地区第1回講習会開催	
	9	第7回例会（於 東京電機大学）	
		『図学研究』第3号刊行．	
	10	大会・例会における研究発表の会誌への転載決定	
	11	東大闘争の拡大により事務局の移動・移転となる	
1969 (S.44)	1	東大闘争激化により事務局閉鎖	
	2	第8回例会（於 三菱重工横浜造船所）	
	3	『図学研究』第4号刊行．	
	5	日本図学研究会 1969 年度大会開催（於 東京電機大学） 会員数 190 名，会長（須藤利一）再選 特別講演「コンピュータ・グラフィックス」（穂坂衛）	3-2(5)
	6	第29回役員会にて会名変更〈日本図学会〉提案決定	
	7	日本図学会と改称（日本学術会議に学術研究団体として登録）	
	10	『図学研究』第5号刊行．	
	11	財政状況の悪化が判明．会誌6号の発行が危ぶまれる	
		第9回例会（武蔵工業展示会見学）	
1970 (S.45)	5	日本図学会 1970 年度大会開催（於 大同工業大学） 会員数 190 名，会費値上げ シンポジウム「図学教育を如何に考えるか」開催． ホーエンベルグ教授（グラーツ工科大学）特別講演は来日不能のため中止．	
	8	第10回例会（於 新潟県六日町） 「グラフィック・サイエンスについて」（南日朗）	

年	月		巻－号 (通号)
1971 (S.46)	1	会報 13 号に図学文献（国内雑誌）リスト掲載	
	5	日本図学会 1971 年度大会開催（於 東京大学） 会員数 189 名，役員改選（会長：幸田彰），図学論文賞検討委員会設置 講演「帰朝報告・アメリカ，カナダの図学教育について」（磯田浩）	
	8	第 11 回例会（於 浜松）	
	11	図学及び製図教育研究委員会発足，図学試験問題・製図課題アンケート調査決める	
		会報 16 号に図学文献（追加分）掲載。 用語委員会再発足	
1972 (S.47)	1	会報 18 号に図学文献リスト掲載	
	5	日本図学会 1972 年度大会開催（於 神戸大学） 会員数 194 名 特別講演「ホログラフィについて」（梯上雅和）	6-2(11)
	8	第 12 回例会（於 日立製作所日立工場）	
	12	PR 用会誌（号外）の発行決める	
1973 (S.48)	5	日本図学会 1973 年度大会開催（於 青山学院大学） 役員改選（会長：幸田彰），会員数 204 名，会費値上げ	7-2(13)
		臨時委員会・コンピュータ・グラフィックス委員会設置（関西）	
	7	日本図学会東北支部設立（於 東北大学）	
	8	第 13 回例会（関西支部合同）（於 神戸） シンポジウム「図学の領域と課題」，パネル討論〈画法幾何学〉〈構成幾何学〉〈図形知覚〉 〈幾何学と図学〉〈コンピュータと図学〉〈美術と図学〉	
	12	第 13 回例会（武蔵工業見学会）	
1974 (S.49)	5	日本図学会 1974 年度大会開催（於 京都大学） 会員数 219 名，会費値上げ 特別講演「コンピュータと画像処理」（坂井利之）	8-2(15)
		『図学研究』投稿規定改定，日本図学会賞授与規定作成	
	11	第 14 回例会（三菱鉛筆横浜事業所見学）	
1975 (S.50)	5	日本図学会 1975 年度大会開催（於 東京藝術大学） 会員数 226 名，役員改選（会長：綾井九州彦） 特別講演「迎賓館の天井画について」（寺田春式）	9-2(17)
	7	日本図学会九州支部設立	
	8	第 15 回例会（東北支部と合同）（於 花巻市）	
	9	10 周年記念事業案の検討始まる	
	12	『図形処理便覧』（のちに『図形科学ハンドブック』と改称）出版準備委員会発足	

50年の歩み

年	月		巻－号 (通号)
1976 (S.51)	5	日本図学会 1976 年度大会開催 (於 九州大学) 会員数 209 名, 会費値上げ, 創立 10 周年記念事業の準備を開始 特別講演「九州の石仏について」(谷口鉄雄)	10-2(19)
	8	合同例会 (本部・東海地区・関西支部) (於 京都大学) 特別講演「群衆歩行のシミュレーション」(岡崎甚幸)	
	10	創立 10 周年記念事業後援会発足	
	12	創立 10 周年記念事業募金計画案承認	
1977 (S.52)	5	日本図学会 1977 年度・創立 10 周年記念大会開催 (於 東京大学) 会員数 205 名, 役員改選 (会長: 熊谷貞男), 〈日本図学会創立 10 周年記念事業後援会〉募金報告, 図学ライブラリ規定決定, 便覧刊行委員会報告, 用語委員会『図学用語集』をもって本年限りで解散と決定. 記念講演「古代アメリカの都市と建築」(増田昭三)・「図学的コンピュータの話」(穂坂衛), 懇談会「図学教育の電算機の導入をめぐる」	11-2(21)
	12	本部例会 (凸版印刷見学)	
1978 (S.53)	4	会報 42 号に図学ライブラリ寄贈図書 (1977 年 5 月～1978 年 3 月) リスト掲載	
	5	日本図学会 1978 年度大会開催 (於 名古屋大学) 会員数 208 名, 創立 10 周年記念事業後援会決算報告, 『図形処理便覧』の名称を『図形科学ハンドブック』に最終決定 記念講演「城はどうして作られたか」(内藤昌)	12-2(23)
	6	米国工学教育協会 (ASEE) の機械設計製図部会 EDGD が創立 50 周年を記念してカナダのバンクーバーにて図学国際会議 (International Conference on Descriptive Geometry) 開催, 日本より 3 論文発表, 4 名参加	13-1(24)
	9	学会 PR 版	
	12	本部例会 (小西六写真工業見学)	
1979 (S.54)	2	会報 45 号から「文珠独語」欄が設けられる 開設執筆は「図学の危機」(上田益造), 題字は熊谷貞夫会長. 「文珠」は近代図学の祖 G. Monge に因んだもの, 挿絵は Monge の “Géométrie descriptive” より掲載.	
	3	国立国会図書館逐次刊行物部から『図学研究』に対し, ISSN (International Standard Serial Number) 0387-5512 を割り当てられる	
	5	日本図学会 1979 年度大会開催 (於 金沢大学) 会員数 235 名, 役員改選 (会長: 小山清男), 文献調査委員会発足 特別講演「金沢の伝統文化」(嶋崎丞)	13-2(25)
	10	『図学研究』投稿規定の改定	
	11	本部例会 (コンピュータ・グラフィックス委員会と合同) (日立精工, 武藤工業見学)	

年	月		巻 - 号 (通号)
1980 (S.55)	2	名誉会員通知状・学会賞状作製 (地模様: 小山清男・鹿島享担当)	
	4	『図学研究』投稿規定内規決定	
	5	日本図学会 1980 年度大会開催 (於 大阪大学) 特別講演「大阪の史蹟—適塾とその周辺」(伴忠康)	14-2(27)
	6	『図形科学ハンドブック』刊行	
	9	学会賞状の印刷用原稿文字を熊谷貞男に依頼, 10 月完成	
	12	本部例会 (於 東京藝術大学) 特別講演「東大寺大仏の調査について」(前田泰次), 映画「幾何形態のアニメーション」	
1981 (S.56)	5	日本図学会 1981 年度大会開催 (於 東京理科大学) 会員数 246 名, 役員改選 (会長: 原正敏)	15-2(29)
	7	会誌の規格を正規の B5 判に統一	
	11	本部例会 (朝日新聞本社見学)	
1982 (S.57)	2	会報 57 号に図学ライブラリ寄贈図書 (1978 年 4 月~1981 年 10 月) リスト掲載	
	5	日本図学会 1982 年度大会開催 (於 関西大学) 会員数 244 名, 会費値上げ, 文献調査委員会がこれまでの調査結果を『図学研究』No. 27~30 号に掲載したと報告	16-2(31)
	7	『図学研究』に「図学ノート」設置を決定 本部見学会 (東洋電機製造・武藤工業の両工場)	
1983 (S.58)	5	日本図学会 1983 年度大会開催 (於 千葉工業大学) 役員改選 (会長: 磯田浩)	17-2(33)
	10	コンピュータ・グラフィックス教育懇談会開催	18-1(35)
	11	会報 64 号にコンピュータ・グラフィックスの図学教育への導入に関する調査結果を掲載	
1984 (S.59)	4	会報 66 号に図学ライブラリ寄贈図書 (1981 年 11 月~1983 年 3 月) リスト掲載	
	5	日本図学会 1984 年度大会開催 (於 大阪市立大学文化交流センター) 会員数 345 名, コンピュータ・グラフィックス教育懇談会をコンピュータ・グラフィックス教育研究会に改組, 東海地区が支部設立準備を開始	18-2(35)
		第 2 回コンピュータ・グラフィックス教育研究会開催 (以降, ほぼ毎年開催, 1994 年からは年 2 回開催)	18-2(35)
	8	第 2 回国学国際会議 ICECG (International Conference on Engineering and Computer Graphics) 中華人民共和国北京にて開催 (中国工程図学会と米国工学教育学会機械製図部会の共催), 日本より 9 論文発表, 23 名参加	19-1(36)
	10	第 3 回コンピュータ・グラフィックス教育研究会開催 本部例会 (於 東京理科大学) 特別講演「図学教育について」(幸田彰)	

年	月		巻－号 (通号)
1985 (S.60)	1	20周年記念事業準備委員会発足（5月に委員決定）（委員長：磯田浩）	
	5	日本図学会 1985 年度大会開催（於 青山学院大学） 研究発表が2会場になる，役員改選（会長：小高司郎）	19-2(37)
		第4回コンピュータ・グラフィックス教育研究会	
	9	第1回 GST 研究会	
		本部例会をコンピュータ・グラフィックス教育研究会と合同で開催	
	11	20周年記念事業案提出	
		日本図学会中部支部設立（東海地区より）（於 名古屋大学）	
	12	会則・編集などの作業部会設置	
		第2回 GST 研究会	
1986 (S.61)	1	作業部会報告	
	3	大会発表予稿集の形式を統一	
	4	第3回 GST 研究会	
		学生会員制設置	
	5	日本図学会 1986 年度大会開催（於 九州大学） 会費値上，創立 20 周年記念事業案承認（『図学研究』記念号発行，記念出版『図形科学ハンドブックーコンピュータ編（仮）』，記念募金）， 将来構想委員会発足	20-2(39)
		第6回コンピュータ・グラフィックス教育研究会	
	9	第5回 GST 研究会	
	11	日本図学会北海道地区（連絡会）設立	
		記念誌『日本図学会創立 20 周年の歩み』（『図学研究』記念号）発行を内定	
		本部例会（於 東京工業大学）	
		将来構想委員会 初会合	
1987 (S.62)	1	20周年記念事業の準備が順調に進む	
	2	1986 年度文部省科学研究補助金総合（B）「図学教育へのコンピュータグラフィックスの導入法に関する研究」（研究代表者：永野三郎）により，さまざまな大学の教育実施例をまとめた報告書を作成	21 (記念号)
	3	『図学研究』第40号から年3回（3月，8月，12月）刊行	21-1(40)

年	月		巻 - 号 (通号)
1987 (S.62)	5	日本図学会 1987 年度・創立 20 周年記念大会 (於 東京大学) 会員数 265 名, 役員改選 (会長: 岩井実), 記念式典 記念講演「CAD 教育の現状と将来」(中島尚正), パネル討論「今後の図学教育」(鈴木賢次郎・田中喬・広部達也), 学術講演 28 件	21-2(41)
		『図学研究』20 周年記念号『日本図学会創立 20 年の歩み』刊行 (委員長: 喜山宜志明)	
	6	第 7 回 GST 研究会	
	8	第 8 回 GST 研究会	
	9	『図学研究』投稿規定改定の検討始まる	
	10	創立 20 周年記念募金の決算報告 (後援会会長: 牧博司, 寄付金総額 2,449,000 円)	
		第 9 回 GST 研究会	
	12	本部例会 (於 千葉工業大学) 第 8 回コンピュータ・グラフィックス教育研究会	22-1(43)
1988 (S.63)	3	図学国際会議の日本開催についての議論始まる 第 10 回 GST 研究会	
	5	日本図学会 1988 年度大会 (於 東北大学) 会員数 284 名, 『図学研究』投稿規定は改定案原案通り承認 記念講演「伊達家」(伊達篤郎), 特別講演「中国の図学事情」(楊鍾藩), 学術講演 14 件	22-2(44)
	7	第 3 回図学国際会議 ICEGDG (International Conference on Engineering Graphics and Descriptive Geometry) オーストリア国ウィーンにて開催, 日本より 16 論文発表, 26 名参加	22-3(45)
	8	日本図学会北海道支部設立 (支部設立総会 (於 北海道大学)) (北海道地区 (連絡会) より支部へ) 本部見学会 (大日本印刷 (株) 市ヶ谷工場) 第 11 回 GST 研究会	
	11	第 12 回 GST 研究会	
	12	第 9 回コンピュータ・グラフィックス教育研究会 本部例会 (於 明星大学)	23-1(46)
1989 (H.元)	3	第 13 回 GST 研究会	
	5	日本図学会 1989 年度大会 (於 東京工業大学) 学術講演 18 件, 会員数 299 名, 役員改選 (会長: 竹山和彦)	23-2(47)
		国際会議連絡委員会新設	
		20 周年記念出版『CG ハンドブック』刊行 (委員長: 磯田浩)	
		第 10 回コンピュータ・グラフィックス教育研究会	23-2(47)

年	月		巻－号 (通号)
1989 (H.元)	6	第14回 GST 研究会	
	7	会則改正の検討始まる	
	8	第15回 GST 研究会	
	9	九州支部第1回国学教育シンポジウム	24-2(50)
	12	本部例会（於 東京芸術大学）	
		本部見学会（NHK）	
		第16回 GST 研究会	
1990 (H.2)	3	第17回 GST 研究会	
	6	第4回国学国際会議 ICECGDG（International Conference on Engineering Computer Graphics and Descriptive Geometry）米国マイアミにて開催，日本より16論文発表，30名参加	24-2(50)
	7	第11回コンピュータ・グラフィックス教育研究会	24-2(50)
		日本図学会 1990 年度大会（於 北海道大学） 会員数 293 名，会則改正は原案通り承認 学術講演 24 件	24-2(50)
	9	会則改正により役員会を理事会と改称 会則改正にともなう学会賞受賞規定・図学ライブラリー規定などの改定の検討始まる	
	10	九州支部第2回国学教育シンポジウム「昭和期の図学教育」	25-2(53), 31-1(75)
	12	本部例会（於 防衛大学校）	
		大会学術講演論文集の簡易印刷の検討始まる	
		第18回 GST 研究会	
1991 (H.3)	1	大会学術講演論文集の簡易印刷決定	
	3	第19回 GST 研究会	
	5	日本図学会 1991 年度大会（於 東京理科大学） 会員数 307 名，役員改選（会長：竹山和彦） シンポジウム「今後の図学教育にむけて ―学会は何をなすべきか―」（永野三郎・川北和明・柴田優・鈴木賢次郎），学術講演 24 件	25-2(53)
			25-2(53)
	6	第20回 GST 研究会	
	8	竹山和彦会長・鈴木賢次郎理事，中国工程図学学会の招待により CADDM '91 に参加し，工程図学学会と教育研究会議の開催について協議。	25-3(54)
		第21回 GST 研究会	
		第1回パソコン利用研究会	
	9	中国工程図学学会と主催する日中国学教育研究会の開催は '93 年 3 月（中国）と決定し，準備作業を始める	

年	月		巻－号 (通号)
1991 (H.3)	10	本部例会（於 山梨県立宝石美術専門学校）	
		図学国際会議 ICECGDG の '94 年日本開催の準備作業を始める	
	11	九州支部第 3 回国学教育シンポジウム「明治期の図学教育」	31-1(75)
1992 (H.4)	2	日中国学教育研究会の正式名称を「日中国学教育研究国際会議」と決定	
	3	「日中国学教育研究国際会議」の '93 年 3 月開催の会告	
		『図学研究』第 55 号から年 4 回（3 月，6 月，9 月，12 月）刊行，会報の発行を取りやめ	26-1(55)
	4	第 22 回 GST 研究会	
	5	日本図学会 1992 年度大会（於 中部大学） 会員数 317 名 シンポジウム「形状と造形感覚—図学の萌芽的研究—」（堤浪夫），学術講演 26 件	26-3(57)
		第 12 回コンピュータ・グラフィックス教育研究会（日中国学教育研究国際会議開催にむけて）	26-3(57)
		第 23 回 GST 研究会	
		第 24 回 GST 研究会	
	7	第 25 回 GST 研究会	
	8	第 5 回国学国際会議 ICECGDG メルボルンにて開催，日本より 23 論文発表，34 名参加，'94 年の東京開催決定	26-3(57)
		国際図学会（International Society for Geometry and Graphics）設立	
		第 2 回パソコン利用研究会	
	9	第 26 回 GST 研究会	
	11	本部見学会（日本航空（株）フライトシミュレーションセンター）	
		本部例会（於 大妻女子大学）	
		図学国際会議組織委員会（委員長：永野三郎）・実行委員会（委員長：鈴木賢次郎）発足	
		第 27 回 GST 研究会	
		九州支部第 4 回国学教育シンポジウム「義務教育における図形教育」	31-1(75)
1993 (H.5)	3	第 1 回日中国学教育研究国際会議（Japan-China Joint International Conference on Graphics Education）無錫にて開催，日本より 31 論文発表，37 名参加	27-2(60)
		図学国際会議東京大会のファーストサーキュラー送付	
	5	日本図学会 1993 年度大会（於 武蔵野美術大学） 会員数 330 名，役員改選（会長：堤浪夫），コンピュータ・グラフィックス教育研究会を図学教育研究会に改組 シンポジウム「美術・造形にとって図学とは」（鹿島享・源田悦夫・佐久間義敬・村松俊夫・面出和子），学術講演 22 件	27-2(60), 27-3(61)

年	月		巻－号 (通号)
1993 (H.5)	6	図学国際会議 ICECGDG 東京大会の会告	
		第 28 回 GST 研究会	
	7	第 29 回 GST 研究会	
	8	CAD/CAM セミナー (於 摂南大学)	27-4(62)
		第 3 回 パソコン利用研究会	27-4(62)
		第 30 回 GST 研究会	
	10	九州支部第 5 回国学教育シンポジウム・第 13 回国学教育研究会 (共催) 「海外における図学教育」	28-1(63), 31-1(75)
	11	本部例会 (於 女子美術大学)	
		本部見学会 ((株) フェイズ)	
		第 31 回 GST 研究会	
1994 (H.6)	2	図学国際会議東京大会のファーストサーキュラー送付, 準備順調に進む	
	6	中国工程図学学会から第 2 回日中国学研究国際会議開催の打診	
		第 32 回 GST 研究会	
	7	第 33 回 GST 研究会	
	8	第 4 回 パソコン利用研究会	
		日本図学会 1994 年度総会 (於 大妻女子大学) 会員数 330 名	28-3(65)
		第 6 回国学国際会議 ICECGDG 東京 (大妻女子大学) にて開催, 日本より 82 論文発表, 146 名参加, 会議参加登録者 214 名 (ロゴマークデザイン: 佐々木仁)	28-4(66)
	11	九州支部第 6 回国学教育シンポジウム・第 14 回国学教育研究会 (共催) 「清家正の思想」	29-1(67), 31-1(75)
	12	本部例会 (於 武蔵工業大学)	
		第 15 回国学教育研究会「図学教育の現状と将来(1)」	29-1(67)
		第 34 回 GST 研究会	
1995 (H.7)	3	第 2 回日中国学研究国際会議の開催決定	
		第 35 回 GST 研究会	
	5	日本図学会 1995 年度大会 (於 大阪電気通信大学) 会員数 341 名, 役員改選 (会長: 永野三郎) 記念講演「阪神・淡路大震災と免震構造」(橘英三郎), 学術講演 25 件	29-2(68)
		第 16 回国学教育研究会「図学教育の現状と将来(2)」	29-3(69)
	6	学会創立 30 周年記念事業の検討開始	

年	月		巻－号 (通号)
1995 (H.7)	6	電子化情報検討委員会の設置決まる	
		第36回 GST 研究会	
	7	第37回 GST 研究会	
	9	第2回日中国学教育研究国際会議 (Japan-China Joint Conference on Graphics Education) 成 都にて開催, 日本より20論文発表, 37名参加	29-4(70)
		第38回 GST 研究会	
	11	第39回 GST 研究会	
	12	第17回図学教育研究会「図学教育の現状と将来(3)―隣接分野からの提言―」	30-2(72)
		本部例会 (於 東海大学短期大学部)	
1996 (H.8)	5	日本図学会 1996 年度大会 (於 九州大学) 会員数 359 名, 30 周年記念事業計画承認 (記念大会の開催・記念出版事業 [『図学研究』 30 周年記念号・『マルチメディア・コミュニケーション』・『美の図学』・『図学用語集 (仮 称)』]・記念表彰 [論文賞・奨励賞・教育功労賞・教育奨励賞・学会功労賞など]) 記念講演「骨の形から古代を考える」(田中良之), 学術講演 25 件	30-2(72)
		第18回国学教育研究会「図学教育の現状と将来(4)」	30-3(73)
	7	第7回国学国際会議 ICECGDG ポーランド国クラコフにて開催, 日本より28論文発表, 42 名参加, この会議より日本図学会は図学国際会議の共催として, 会議開催に協力することにな った	31-2(76)
		第40回 GST 研究会	
	9	電子化情報検討委員会の調査報告	30-3(73)
		九州支部第7回国学教育シンポジウム「図形教育シンポジウムをふり返って」	31-1(75)
		第41回 GST 研究会	
	11	本部例会 (於 青山学院大学)	
	12	第19回国学教育研究会「図学教育の現状と将来(5)―米・豪における (機械系) 図学関連教 育―」	31-2(76)
		30 周年記念大会の準備作業順調に進む	
1997 (H.9)	1	第42回 GST 研究会 (於 三菱重工業株式会社神戸造船所), 講演 2 件	
	4	『図学研究』30 周年記念号『図学は今』刊行 (委員長: 堤江美子)	
		30 周年記念出版『シンセティック CAD ―コンピュータ支援による設計製図の実際』刊行 (委員長: 鈴木賢次郎)	
	5	日本図学会 1997 年度・創立 30 周年記念大会 (於 東京大学) 会員数 364 名, 役員改選 (会長: 永野三郎), 記念式典, 記念表彰 (論文賞, 奨励賞, 教育 功労賞, 教育奨励賞, 学会功労賞など), 賛助会員感謝状贈呈, 募金募集 ～次頁へ 記念大会つづく～	31-2(77)

年	月		巻－号 (通号)
1997 (H.9)	5	～前頁から 記念大会つづく～ 記念講演「エンジニアリング・デザイン・グラフィックス・カリキュラムの現代化」(Davor Juricic) Dennis Short 教授 (Purdue 大学) 挨拶 シンポジウム「図学の基礎領域とその展開」(井野智・鈴木賢次郎・D. Short・長江貞彦・面出和子), 学術講演 39 件	31-3(77)
	5	30 周年記念出版『マルチメディア・コミュニケーション』刊行 (委員長: 長江貞彦)	
	7	第 3 回日中国学教育研究国際会議 昆明にて開催 (於 昆明理工大学), 日本より 27 論文発表, 40 名参加	31-4(78)
	10	国際図学会論文誌 JGG (Journal for Geometry and Graphics) 創刊号刊行	
	11	第 43 回 GST 研究会 (於 牛窓研修センター「カリヨンハウス」), 講演 2 件	
		本部例会 (於 日本大学生産工学部), 講演 10 件	
		第 20 回国学教育研究会「半年の一般 (教養) 図学」	32-1(79)
1998 (H.10)	1	第 44 回 GST 研究会 (於 山野酒造株式会社), 講演 1 件	
	5	日本図学会 1998 年度大会 (於 北海道大学) 会員数 351 名, 記念講演「人と図形」(東弘孝), 学術講演 30 件	32-2(80)
		第 21 回国学教育研究会「機械系図学関連教育」, 講演 5 件	32-3(81)
	6	30 周年記念出版『美の図学』刊行 (委員長: 小山清男)	
	7	第 8 回国学国際会議 ICECGDG 米国テキサス州オースティンにて開催 (於 テキサス大学), この会議で国際図学会 (ISGG) を正式主催団体として認証. 発表論文 117 編, 日本より 28 論文発表, 56 名参加	32-4(82)
	9	日本図学会のロゴマークおよびロゴタイプを策定, 1994 年図学国際会議のロゴ (作成: 佐々木仁) に改変を施す許可を得て作成 (丸山剛)	
		第 45 回 GST 研究会 (於 大阪電気通信大学)	
	11	本部例会 (於 埼玉大学), 講演 11 件	
		第 22 回国学教育研究会「造形芸術・被服系図学関連教育」, 講演 5 件	33-2(84)
1999 (H.11)	1	『図学研究』の投稿規定を改定	
	3	『図学研究』の装丁が変わり (A4 サイズ化, 表紙・レイアウトを一新, デザイン: 丸山剛), 内容の一層の充実が図られる	33-1(83)
		第 46 回 GST 研究会 (於 明星金属工業 K.K.)	
	5	日本図学会 1999 年度大会 (於 武蔵工業大学) この回より大会開催期間を 2 日間に変更 会員数 351 名, 役員改選 (会長: 吉田勝行), 学生会員の新設, 会費改定が承認される, 学術講演 32 件	33-2(84)
		第 23 回国学教育研究会「CG 図学」, 講演 5 件	33-3(85)

年	月		巻 - 号 (通号)
1999 (H.11)	7	第4回日中国学教育研究国際会議 敦煌にて開催, 招待講演5編, 発表論文46編, 日本より28論文発表, 36名参加	33-4(86)
	9	第47回GST研究会 (於 大阪電気通信大学)	
	10	事務処理効率化のための会員番号導入	
	11	本部例会 (於 東京工科大学), 講演6件	
		第24回国学教育研究会「設計にとって図学は必要か」, 講演2件	34-1(87)
2000 (H.12)	2	学会作業全般の電子化の検討を開始	
	3	日本学術会議50周年記念シンポジウム「数学教育の改善をめざして」にて鈴木賢次郎・加藤道夫が幾何学教育の必要性を意見する, 研究報告書「『総合的な学習の時間』の単元カリキュラムの開発と理論モデルの構築に関する研究」に「かたちを主題にした総合的な学習の実践」(小林範夫)	35-3(93), 37-4(102)
	4	第48回GST研究会 (於 大阪産業大学), 講演2編	
	5	日本図学会2000年度大会 (於 いわき明星大学) 会員数354名, 日本図学会賞授賞規定を改定 特別講演「歴史教科書を変える最近の考古学的成果」(馬目順一), 学術講演21件	34-2(88)
		学会活動および『図学研究』の電子化についてのアンケートを実施	34-4(90)
		第25回国学教育研究会「設計と図学」, 講演4件	
		第5回日中国学教育研究国際会議 (大阪) の準備を開始 (組織委員長: 吉田勝行)	
	7	第49回GST研究会 (於 関西文化サロン), 講演4編	
		第9回国学国際会議 ICGG (International Conference on Geometry and Graphics) 南アフリカ共和国ヨハネスブルグにて開催, この回より主催は国際図学会 (ISGG). 招待講演4編, 発表論文73編, 会議参加登録者92名, 日本より32論文発表, 39名参加	34-4(90)
	11	本部例会 (於 筑波技術短期大学), 研究発表13編	
2001 (H.13)		第26回国学教育研究会「専門科目としてのCG教育」, 講演4編	35-1(91)
	3	日本学術会議シンポジウム「21世紀の多様性社会における基礎学力とは」において講演「図学的表現ツールの進化と表現上の誤りの増加について」(吉田勝行)	35-3(93), 37-4(102)
	5	ホームページデザインを変更	
		日本図学会2001年度大会 (於 青山学院大学) 会員数343名, 役員改選 (会長: 鈴木賢次郎) 特別講演「知識進化図作成システム」(辻正重), 学術講演27件	35-2(92)
		第27回国学教育研究会「専門科目としてのCG教育(2)」, 講演4編	35-3(93)
	6	ホームページ改定・メーリングリストの設置など電子的環境の向上が図られる 本部例会の大会化, 図学教育の現状調査などについて検討開始	

50 年の歩み

年	月		巻－号 (通号)
2001 (H.13)	7, 8	第 5 回日中国学教育研究国際会議 大阪にて開催 (於 大阪ガーデンパレス), 参加者総数 97 名, 招待講演 4 編, 発表論文 58 編, 日本より 44 論文発表, 日本側参加者 73 名	35-4(94), 36-1(95)
	8	日本学術会議科学教育研連フォーラム「日本の 21 世紀半ばを想定した科学教育の体系化構想」において講演「視覚化と図的思考をめぐって」(小高直樹)	37-4(102)
	12	本部例会 (於 神奈川工科大学), 研究発表 8 編	
		第 28 回図学教育研究会「図学関連科目のシラパスと教材その 1」, 講演 2 編	36-1(95)
2002 (H.14)	2	名誉会員内規を制定	36-2(96)
	5	日本図学会 2002 年度大会 (於 中部大学) 会員数 343 名, 特別講演「生きるための動と静の戦略」(山下興亜), 学術講演 31 件	36-2(96)
		第 29 回図学教育研究会「図学関連科目のシラパス構築へむけて」	36-3(97)
	7, 8	第 10 回図学国際会議 ICGG ウクライナ共和国キエフにて開催, 招待講演 4 編, 発表論文 94 編, 日本より 34 論文発表, 38 名参加	36-4(98)
	9	日本技術者教育認定機構 (JABEE) の正会員となる	
	11	本部例会 (於 文部省共催宿泊所静雲荘), 研究発表 14 編	
		第 30 回図学教育研究会「模型と展開図の活用」, 講演 9 編	37-1(99)
		図学および図的表現法の教育に関する実状調査を実施 (臨時委員会: 図学教育実状調査委員会)	
2003 (H.15)	12	日本学術会議シンポジウム「世界をリードするこれからの戦略的な科学技術教育の推進」において提案「科学技術者を支える指導者, 創造的研究者, 創造的技術者の育成」(加藤道夫)	37-4(102)
	2	日本学術会議シンポジウム「21 世紀の市民の科学・技術リテラシーの体系化」において提案「身近な美の理解を助ける図学とその教育」(近藤邦雄)	37-4(102)
	5	日本図学会 2003 年度大会 (於 女子美術大学) 会員数 336 名, 役員改選 (会長: 鈴木賢次郎) 女子美アートミュージアム・ギャラリートーク「具象と抽象のはざま」展 (林敬二), 学術講演 33 件	37-2(100)
		第 31 回図学教育研究会「CAI システムおよび模型の活用」, 発表 8 編	37-3(101)
	6	『図学研究』通巻 100 号を発行 (通巻 100 号特集)	37-2(100)
	7	第 6 回日中国学教育研究国際会議を西安で開催予定であったが, 新型肺炎 (SARS) 流行のため Web 会議にて開催: 第 6 回日中国学教育研究国際会議プロシーディングスを発行, 収録論文 77 編	
	11	本部例会 (於 熱海ニューフジヤホテル), 研究発表 16 編	38-1(103)
		第 32 回図学教育研究会「図学及び図的表現法の教育の現状と今後の展開」, 発表 2 編	38-1(103)
2004 (H.16)	2	図学および図的表現法の教育に関する実状調査の結果まとまる	39-1(107)
	5	日本図学会 2004 年度大会 (於 神戸大学) 会員数 339 名, 特別講演「漢字の書法の変遷」(魚住和晃), 学術講演 43 件	38-2(104)

年	月		巻 - 号 (通号)
2004 (H.16)	5	第 33 回図学教育研究会「図学教材とその活用」	38-3(105)
	8	第 11 回図学国際会議 ICGG 中華人民共和国広州にて開催, 招待講演 4 編, 発表論文 108 編, 参加登録者 112 名, 日本より 34 論文発表, 37 名参加	38-4(106)
	12	本部例会 (於 伊東パウエル), 研究発表 14 編	39-1(107)
		第 34 回図学教育研究会「CG/CAD ツールを利用した図学教育」, 講演 9 編	39-1(107)
	12	JABEE 国際シンポジウム「技術者教育とエンジニアリングデザイン」においてエンジニアリングデザインの共通認識声明が出され, 図表現が必要能力に含まれる	
2005 (H.17)	5	日本図学会 2005 年度大会 (於 埼玉大学) 会員数 343 名, 役員改選 (会長: 加藤道夫), 大会学術講演に対する優秀研究発表賞および研究奨励賞を創設 (賞状と盾のデザイン・制作: 村松俊夫) 特別講演「リンクス・デジワークス: CM & ゲームムービー '04/'06」(福本隆司), 学術講演 38 件	38-2(108)
		第 35 回図学教育研究会「造形デザイン系の図学教育における教材とその教育実践」	39-3(109)
	6	『図学研究』の電子アーカイブ化を検討開始	
	7	第 7 回日中国学教育研究国際会議 西安にて開催, 発表論文 65 編, 日本より 25 論文発表, 26 名参加	39-3(109), 39-4(110)
	10	日本図学会, 日本学術会議の登録学術研究団体から協力学術研究団体 (第三部) へと移行	
	12	本部例会 (於 摂南大学), 特別講演「企業におけるデジタルエンジニアリングツールの活用」(宇土和宏), 「図学/設計製図教育への 3D-CAD/CG 導入」(鈴木賢次郎), 研究発表 9 編	40-1(111)
		第 36 回図学教育研究会「図学教育における透視図法の現状と今後」, 発表 12 編	40-1(111)
2006 (H.18)	1	『図学研究』の PDF 化が完了	
	4	企画委員会を設置	
	5	日本図学会 2006 年度大会 (於 九州産業大学) 会員数 346 名 特別講演「シーボルトと絵師川原慶賀」(谷口治達), 学術講演 39 件	40-2(112)
		第 37 回図学教育研究会「デジタルコンテンツ時代の図学教育」, 発表 5 編	40-3(113)
		『図学研究』掲載論文に対する論文賞 (研究論文賞・教育論文賞) を創設 (第 1 回は教育論文賞, 以降, 隔年で交互に授賞) (賞状と盾のデザイン・制作: 村松俊夫)	
		創立 40 周年記念事業準備委員会を設置, 準備を開始	
	8	第 12 回図学国際会議 ICGG ブラジル国サルバドールにて開催, 招待講演 4 編, 発表論文 92 編, 参加登録者 90 名, 日本より 21 論文発表, 鈴木賢次郎氏 The Steve M. Slaby Award を受賞	40-4(114)

年	月		巻 - 号 (通号)
2006 (H.18)	9	創立 40 周年記念事業計画固まる 記念大会の開催 (於 東京大学) 記念講演 (海外より研究者を招聘) 記念出版事業 創立 40 周年記念誌 (委員長: 梶山喜一郎) 『Pov-Ray で学ぶ図形科学 (仮称)』 (鈴木広隆ほか) 『CAD/CG 時代の図形科学 (仮称)』 (鈴木賢次郎ほか) 記念表彰 [論文賞・功労賞など]	
	9	図学教育研究会特別講演会「インスブルック大学における図学—幾何学と CAD 教育」 (Hans-Peter Schröcker) (於 東京大学)	40-4(114)
	12	本部例会 (於 静岡文化芸術大学), 特別講演「自由曲面の研究について」(東正毅), 研究発表 13 編	41-1(115)
		第 38 回図学教育研究会「CG/CAD, 造形デザイン教育と評価方法」, 発表 4 編	41-1(115)
		40 周年大会の準備作業順調に進む	
2007 (H.19)	1	第 1 回デジタルモデリングコンテスト作品募集 (一般公募) 新設	
	3	40 周年記念大会に向けて『図学研究』誌上討論が行われる	41-1(115)
		東京大学創立 130 年記念『測る人・画く人』展共催 (於 東京大学教養学部自然科学博物館) (~6 月)	
	5	日本図学会 2007 年度・創立 40 周年記念大会 (於 東京大学) 記念式典, 40 周年記念表彰 (学会功労賞および論文賞), 学術講演 53 件, 会員数 336 名, 役員改選 (会長: 加藤道夫), 募金募集 招待講演 3 題 “The State of Engineering Design Graphics in the United States” (Theodore J. Branoff) (ノースカロライナ州立大学) “Application of CAD Technology and Education of Engineering Graphics in China” (Bing-shu Tong) (精華大学) “The Status of Today's Descriptive Geometry Related Education (CAD/CG/DG) in Europe” (Hellmuth Stachel) (ウィーン工科大学) 記念シンポジウム「3D-CAD, CG 時代の図法幾何学」(西原一嘉・鈴木広隆・神山明・近藤邦雄・鈴木賢次郎)	41-2(116) 41-2(116) 41-3(117)
		第 1 回デジタルモデリングコンテスト実施, 応募 13 件 (賞状デザイン: 町田芳明)	41-2(116)
		『図学研究』40 周年記念号『図学研究の広がり』刊行 (委員長: 梶山喜一郎)	
	7	第 8 回日中国学教育研究国際会議 蘇州にて開催, 日本より招待講演 2 題, 研究発表 21 編, 本会をもって同会議一時中断	41-3(117)
	9	第 39 回図学教育研究会 (関西支部第 83 回支部例会と共催)	41-4(118)

年	月		巻 - 号 (通号)
2007 (H.19)	12	本部例会 (於 富山大学), 学術講演 30 件 第 1 回モノづくりと三次元 CAD に関するフォーラム, 講演 4 題	42-1(119)
		第 40 回図学教育研究会「3D-CAD/3DCG 時代の図形科学・図法幾何学の課題と今後の展望」, 講演 5 題	42-1(119)
2008 (H.20)	3	40 周年記念出版『3D-CAD/CG 入門— Inventor と 3ds MAX で学ぶ図形科学—』(鈴木賢次郎・横山ゆりか・金井崇) 刊行	
		40 周年記念出版『POV-Ray による 3 次元 CG 制作—モデリングからアニメーションまで—』 (鈴木広隆・倉田和夫・佐藤尚) 刊行	
	5	日本図学会 2008 年度大会 (於 北海道大学) 会員数 325 名, 学術講演 47 件	42-2(120)
		第 41 回図学教育研究会「POV-Ray による 3 次元 CG 制作」, 講演 6 題	42-2(120)
		第 2 回デジタルモデリングコンテスト, 応募 20 件	42-2(120)
	8	第 13 回図学国際会議 (ICGG2008) をドイツ国ドレスデン市 (ドレスデン工科大学) にて開催, 参加者総数 257 名, 日本より招待講演 2 題, 研究発表 32 編	42-4(122)
	10	2009 年度より本部例会を廃止し, 大会を年 2 回開催することを決定	
	11	本部例会 (於 立教大学池袋キャンパス), 学術講演 32 件 第 2 回モノづくりと三次元 CAD に関するフォーラム, 講演 6 題	43-1(123)
		第 42 回図学教育研究会「3D-CAD/CG による図 (形科) 学教育~Autodesk Inventor/3ds Max を例に」, 講演 1 題+実習	43-1(123)
2009 (H.21)	2	第 14 回図学国際会議準備委員会設置 (組織委員長: 加藤道夫, 実行委員長: 鈴木広隆)	
	5	日本図学会 2009 年度春季大会 (於 筑波技術大学天久保キャンパス) 会員数 325 名, 役員改選 (会長: 堤江美子) 特別講演 「「視覚伝達デザイン」を「触覚伝達デザイン」の世界へ —筑波技術大学「触って観る」アートプロジェクト—」 (安田輝男), 学術講演 45 件	43-2(124)
		第 43 回図学教育研究会「SketchUp を用いた図学教育とその実践」, 講演 1 題	43-2(124)
		第 3 回デジタルモデリングコンテスト, 応募 35 件	43-2(124)
	11	40 周年記念出版『図学用語辞典』刊行 (委員長: 加藤道夫)	
		日本図学会 2009 年度秋季大会 (於 東京都市大学世田谷キャンパス) 学術講演 31 件 第 3 回モノづくりと三次元 CAD に関するフォーラム, 講演 5 題	44-1(127)
		第 44 回図学教育研究会「CG/CAD を図 (形科) 学で教えることの意義」, 講演 3 題	44-1(127)
		科学技術振興機構が「平成 21 年度電子アーカイブ対象候補誌」として『図学研究』を選定	

年	月		巻－号 (通号)	
2010 (H.22)	8	日本図学会 2010 年度総会開催，会員数 317 名	44-3(129)	
		第 14 回国学国際会議（ICGG2010）を京都大学百周年時計台記念館にて開催，総論文数 152 編，参加登録者 198 名，日本より研究発表 64 編，ポスター発表 9 編，参加者 103 名 （ロゴおよびアブストラクト集カバーのデザイン：齋藤綾・面出和子） 招待講演 5 題 “Turned Ivory Polyhedra”（Tibor Tarnai） “An Introduction to the Use of 3D Digital Data of Cultural Properties（Sculpture）in Education and Research”（彫刻文化財の 3D デジタルデータを活用した教育と研究の紹介—東京藝術大学大学院文化財保存学における実例—）（藪内佐斗司） “BIM and Its Impact on Engineering & Graphic Communication Education”（Clark Cory） “Research of Digital Lead Design Process”（山下敏男） “Discrete Gliding Along Principal Curves”（Hans-Peter Schröcker）	44-4(130)	
		9	中国図学学会より日中国際会議再開の要望	
		11	日本図学会 2010 年度秋季大会（於 法政大学市ヶ谷キャンパス） 学術講演 28 件	45-1(131)
			第 45 回国学教育研究会「メディア系・アート系学科での CG・CAD ツールを用いた教育について」，講演 4 題	45-1(131)， 45-2(132)
	第 4 回デジタルモデリングコンテスト，応募 14 件		45-2(132)	
2011 (H.23)	5	日本図学会 2011 年度春季大会（於 東京電機大学神田キャンパス） 会員数 322 名，役員改選（会長：堤江美子），企画広報委員会設置（企画委員会と電子化委員会を再編して設置） 学術講演 36 件	45-3(133)	
		第 46 回国学教育研究会「建築系学科における 3D・CG/CAD ツールの意義と教育の在り方」，講演 3 題	45-3(133)	
	6	錯覚美術館見学ツアー開催		
	7	春季大会開催場所変更（東北地方太平洋沖地震とそれに伴う災害への対応）による剰余金 126,473 円を東日本大震災支援のため朝日新聞厚生文化事業団に寄付		
	8	『図学研究』（通巻 1 号～122 号及び別冊）J-STAGE にて公開開始 (https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsgs/-char/ja/)		
	11	日本図学会 2011 年度秋季大会（於 大阪市立大学杉本キャンパス） 招待講演「中国の工業教育と中国図学教育の改革」（韓宝玲）（中国図学学会国際担当，北京理工大学），学術講演 46 件	46-1(135)	
		第 47 回国学教育研究会「初等・中等教育における図形・図法（幾何学）に関わる授業とその必要性」，講演 3 題	46-1(135)	
		第 5 回デジタルモデリングコンテスト，応募 11 件	46-1(135)	
		日中国際会議（名称：アジア図学会議）2013 年より再開を決定		

年	月		巻－号 (通号)
2012 (H.24)	5	日本図学会 2012 年度春季大会 (於 大同大学滝春キャンパス) 会員数 306 名, 『図学研究』 投稿規定を改定 学術講演 30 件	46-3(137)
		第 48 回国学教育研究会「3D-CAD/CG 時代における図法幾何学教育の意義—モンジュの図法幾何学を読み解く」, 講演 3 題	46-3(137)
	8	第 15 回国学国際会議 (ICGG2012) をカナダ国モントリオール市 (マギル大学) にて開催, 総論文数 118 編 (口頭 109 件, ポスター 9 件), 日本より研究発表 32 編, 参加者 42 名, 堤 江美子氏 The Steve M. Slaby Award を受賞	46-4(138)
	9	『図学研究』 執筆要領を改定	
	10	日本図学会ウェブページ刷新	
		『図学研究』 論文投稿電子化	
		大会講演論文集の原稿提出電子化 (2013 年度春季大会より運用)	
	12	日本図学会 2012 年度秋季大会 (於 東京工科大学蒲田キャンパス) 学術講演 44 件	47-1(139)
		第 49 回国学教育研究会「実務者と職業能力開発大学校における (機械) 設計製図の現状と 課題」, 講演 2 題	47-1(139)
		第 6 回デジタルモデリングコンテスト, 応募 2 件	47-1(139)
2013 (H.25)	4	ホームページ委員会設置	
	5	日本図学会 2013 年度春季大会 (於 産業技術短期大学) 会員数 289 名, 役員改選 (会長: 山口泰), 学術講演 30 件	47-2・3 (140)
		第 50 回国学教育研究会「デジタルモデリングに関する研究の必要性」, 講演 4 題	47-2・3 (140)
	8	第 9 回アジア図学会議 (Asian Forum on Graphic Science 2013) を中華人民共和国大連市仲 夏花園酒店にて開催 (日中国学教育研究国際会議を発展的に改定して再開), 総論文数 25 編, 参加登録者 200 名超, 日本より特別講演 1 題, 研究発表 14 編, 参加者 18 名	47-4(141)
		3D プリンタを深く知るためのラピッドプロトタイピング研究会 (於 埼玉県産業技術総合セ ンター)	48-1(142)
	10	『図学研究』 の J-STAGE 登録開始 (「論文」「作品紹介」「講座」に DOI 付与)	
		「優秀研究発表賞」「研究奨励賞」表彰規定改定 (委員会の名称変更に伴う改定)	
	11	日本図学会 2013 年度秋季大会 (於 岩手県盛岡市ホテル大観) 学術講演 24 件	48-1(142)
		第 7 回デジタルモデリングコンテスト, 応募造形部門 8 件・アイデア部門 3 件	48-1(142)
	12	大会講演論文の著作権に関する規定の制定 (講演論文集の著作権帰属明確化のため)	

年	月		巻－号 (通号)
2014 (H.26)	1	『図学研究』執筆要領を改定	
	3	JABEE 退会（入会は2002年）	
	4	デジタルモデリングコンテスト実行委員会を発展的に解消し、デジタルモデリング研究会設置	
	5	日本図学会 2014 年度春季大会（於 九州大学西新プラザ） 会員数 299 名，学術講演 34 件	48-2・3 (143)
		第 51 回図学教育研究会「図学関連教育と空間認識力一切断面実形視テスト（MCT）による調査結果を中心に―」，講演 3 題	48-2・3 (143)
	6	大会講演論文集を国立国会図書館に献本し，ISSN の付与を受けることにした（1997 年に遡って ISSN が付与され，国立国会図書館に献本した）	
	8	第 16 回図学国際会議（ICGG2014）をオーストリア国インスブルック市（インスブルック大学）にて開催，参加登録者 227 名（37 ヶ国），フルペーパー 144 編，ポスター 19 編，日本より研究発表 28 編・ポスター 1 編，参加者 39 名	48-4(144)
	9	『図学研究』第 140 号より J-STAGE にて公開開始	
	11	日本図学会 2014 年度秋季大会（於 東京藝術大学） 特別講演「彫刻をつくることと図学」（本郷寛），学術講演 40 件，作品展示を特別開催（22 件）	49-1(145)
		第 8 回デジタルモデリングコンテスト，応募造形部門 9 件・アイデア部門 2 件	49-1(145)
		第 1 回デジタルモデリング研究会，テーマ「デジタルデータ」，講演 3 題	49-1(145)
2015 (H.27)	3	リガ工科大学 Zoja Veide 先生講演会（於 東京大学教養学部），「リガ工科大学・神戸大学間の学術交流事業」（鈴木広隆），「リガ工科大学における工学製図教育―ラトビアの文化と幾何学の間のいくつかの関係について」（Zoja VEIDE）	
	5	日本図学会 2015 年度春季大会（於 北海道大学） 会員数 312 名，役員改選（会長：山口泰），学術講演 32 件	49-3(147)
		第 52 回図学教育研究会「図法幾何学教育の現状と将来―総合大学のケース―」，講演 6 題	
	8	第 10 回アジア図学会議（AFGS2015）をタイ国バンコク市チャトリウムホテルリバーサイドにて開催（日本・中国以外での初の開催），総論文数 32 編，参加登録者 55 名，日本より研究発表 19 編，ポスター 10 編，参加 36 名	49-4(148)
	10	Autodesk 社との意見交換会，デジタルモデリングコンテストおよび Inventor Professional および 3ds Max Design を利用した図形科学教育を紹介	
	11	日本図学会 2015 年度秋季大会（於 大阪大学吹田キャンパス） 学術講演 34 件	50-1・2 (149)
		第 2 回デジタルモデリング研究会，テーマ「情報の可視化技術」，講演 2 題	50-1・2 (149)

年	月		巻－号 (通号)
2015 (H.27)	11	第9回デジタルモデリングコンテスト, 応募造形部門7件・アイデア部門2件	50-1・2 (149)
2016 (H.28)	4	科学研究費補助金研究成果公开发表 (C)「アジア図学会議 (AFGS)／アジアデジタルモデリングコンテスト (ADMC)」採択	
		外部資金に基づく事業の会計に関する規定の制定 (科学研究費補助金による事業実施のため)	
	5	2016 年度大会講演論文から『図学研究』採録論文への査読希望募集開始	
		日本図学会 2016 年度春季大会 (於 八戸グランドホテル) 会員数 319 名, 学術講演 32 件	50-3(150)
		50 周年記念事業準備委員会設置, 50 周年記念大会, アジア図学会議 (AFGS2017), アジアデジタルモデリングコンテスト (ADMC), 図学研究 50 周年記念号, 図学会 50 年間のアーカイブ, J-STAGE 未登録号の登録などの準備を開始	
	8	第 17 回国学国際会議 (ICGG2016) を中華人民共和国北京市 (北京理工大学) にて開催, 参加者総数 152 名, 総論文数 144 編, 日本より招待講演 1 題, 研究発表 24 編, ポスター発表 3 編	50-4(151)
	11	日本図学会 2016 年度秋季大会 (於 首都大学東京南大沢キャンパス) 学術講演 24 件, ポスター発表 19 件	51-1(152)
		第 3 回デジタルモデリング研究会, テーマ「デジタルファブリケーションの制作環境を利用したものづくり教育」, 講演 3 題	51-1(152)
	12	50 周年記念事業の準備作業順調に進む	

よこやま ゆりか

東京大学大学院 総合文化研究科広域科学専攻広域システム科学系 (情報・図形) 教授, 博士 (工学)
構築環境の知覚・認知・記憶および構築環境における人間行動の研究

しいな くみこ

独立行政法人 大学入試センター研究開発部 教授, 博士 (学術)
空間認識力の評価, 非教科型の能力測定に関する研究に従事.
shiina@rd.dnc.ac.jp

たねだ もとはる

法政大学, 東洋大学, 桜美林大学 非常勤講師, 博士 (工学)
近代建築と図面表現に関わる研究に従事.
mt.totoharu@gmail.com